

# 春の経済教室

持続可能な社会の形成者育成をめざした実践研究  
単元「将来世代を考慮した制度を考える」の開発

大阪府立三国丘高等学校  
首席（主幹教諭） 大塚雅之

# 簡単に自己紹介

- 平成20年（2008年）政治・経済 採用
- 平成20～25年 府立泉鳥取高等学校 教諭
- 平成25～26年 大阪府教育センター指導主事（兼充）
- 平成26～令和6年 府立三国丘高等学校 教諭
- 平成30年 大阪教育大学教職大学院 修了
- 令和3年～ 神戸大学大学院後期博士課程在籍
- 令和6年～現在 三国丘高等学校 首席（主幹教諭）

# 今回の実践の概要

- 内容：政治・経済 学習指導要領  
「財政の働きと仕組み及び租税などの意義」
- 対象：大阪府立三国丘高等学校 3年生  
政治・経済 選択者86名
- 時期：5月下旬から6月初旬にかけて実施
- 時間：4時間（1校時 50分）

# 学習指導要領解説 p.144

財政健全化については、**税金の不足など必要となる財源の確保が**できない中での**公債金への依存**、**歳出における社会保障関係費や国債費の増加**、**先進国の中で見た場合の社会保障支出と国民負担率の不均衡**、**債務残高の累増と将来の世代への負担の付け回し**など、様々な問題が見られる。

例えば、**税制の見直しや必要となる財源の確保**、**予算制度の在り方や効率的かつ効果的な資源配分**、**基礎的財政収支の改善**や**債務残高の縮減**、**現在の世代と将来の世代との間の不公平の見直し**などに、**どう関わるかを探究できるようにすることが考えられる。**

**諸外国における様々な状況や取組なども参考にして考察**、**構想し**、**自分の考えを説明**、**論述できるようにすることも考えられる。**

# 目標 本単元での目標（資質・能力）

単元で構成する意図

- ・ 知識は与えられるものではなく学習者自身が構成（知識構成主義）
- ・ 知識同士の関連付け、葛藤、対話による多面的・多角的な視点の獲得

観点	目標
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 財政の機能、財政民主主義等について構造的に理解する</li><li>・ 財政に関わる新聞等の資料を適切に読み取る</li></ul>
思考力・判断力・表現力	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 財政に関して将来世代の視点などを取り入れた上で多面的・多角的に考察できる</li><li>・ 海外の将来を考慮した制度を参考した上で構想できる</li></ul>
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 立場の違いを超えた、粘り強い対話と合意形成を行おうとする</li></ul>

# 単元の流れ

時間	内容
第1時間目	累積債務問題に関する動画を視聴する。財政の現状、財政民主主義などを構造的に理解する。 <b>(課題の把握)</b>
第2時間目	税の公平性について理解する。社説を読み比べ、消費税がどうあるべきか多面的・多角的に考察する。 <b>(考察1)</b>
第3時間目	財政に関して様々な考え方（MMT理論など）があることを理解した上で、海外の制度も参考としながら、日本の財政の在り方を多面的・多角的に考察する。 <b>(考察2)</b>
第4時間目	将来世代役と現世代役に分かれて対話し葛藤を経験する。どの世代に生まれるか分からない「無知のヴェール」状況で、将来を考慮した制度の在り方を構想する。 <b>(構想)</b>

# 第1時間目の工夫 導入での発問

- 消費税1%ってどれくらいの税収? 2.4兆円
- 1兆円 = 1,000,000,000,000円 板書
- 1兆円を100年間毎日使うなら1日いくら使う必要がある?
- 消防車1台、学校の建て替え、イージス艦1つは、いくら?
- 大谷翔平にとっての1万円と君たちの1万円の価値は同じ?
- なぜ財政赤字になるの?
- 予算を議決するのはどこか?

## 第2時間目の工夫 情報活用場面での発問

- 資料を比較させる。その変化が起こっている意味を考察、さらに必要な情報は何かを考えられるように発問
- 「AとBはどちらが大きい？」
- 「AからBはどのように変化した？」
- 「そのような違いを起こる理由は？」

本実践の場合には、消費税、プライマリーバランスについての論調の異なる新聞をペアで読ませて、以下のようにスライドに提示。

- 「A社とB社の社説での主張の違いとは？」
- 「A社の主張の根拠はB社とどのように違うのか？」

# 第3時間目の工夫

## 多面的・多角的な視点の確保

- 日本の累積債務についての考え方の違いを紹介
- ギリシャの財政との違いを比較
- 財源不足により、行政サービスが低下した日本の自治体を紹介
- MMT理論の紹介
- OECD諸国の「独立財政機関」、フィンランド国会の「将来委員会」などの事例紹介
- 現在を優先する自分を知る。
- 「今1万円もらうのを我慢するなら、1年後には最低でもいくら欲しいですか？」
- →中央値15,000円（割引率50%）

# 4 時間目の工夫 葛藤体験の導入

- 4～5人の班で対話を行わせる。
- 半分は仮想将来世代、半分は現在世代。

## 50年後の仮想シナリオ

- 付加価値税（消費税）25%
- 所得税30%
- 保険料6万円（月額）
- 医療費3.5割負担
- 年金給付額5万円（月額）

「もしも自分がどの世代か分からないなら？」

# 最後に

- 今回の実践は一例に過ぎません。
  - それぞれの学校の先生方が、最も自分の生徒の実態を把握しているはずです。
  - 今日の発表が、先生方ご自身が、生徒や学校目標に合わせて授業を工夫する際の、小さなヒントや材料になれば幸いです。
- ご清聴ありがとうございました。

# 参考文献等

- ・高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説 公民編（2018）、文部科学省、p.114.
- ・斎藤誠（2021）「教養としてのグローバル経済」有斐閣、p.78.
- ・橋本康弘・藤井剛（監修）、大塚雅之、その他（2017）「授業LIVE 18歳からの政治参加 アクティブ・ラーニングで学ぶ主権者教育[授業事例集]」p.100-113.
- ・大塚雅之（2023）「行動経済学を取り入れ、公共的・社会的課題解決力を育成する高等学校公民科「金融」の単元開発と実践」、神戸大学大学院人間発達環境学研究科研究紀要,17(1)p.43-52、神戸大学
- ・大塚雅之（2025）「高等学校公民科における人間の非合理性を踏まえた社会参加学習—金融行動に対するナッジを用いた課題解決力の向上を目指して—」、公民教育研究32,p.53-67、日本公民教育学会
- ・西條辰義（2018）「フューチャー・デザイン」、環境経済・政策研究11(2)、p.29-42.
- ・小林慶一郎(2019)「時間の経済学」ミネルヴァ書房
- ・尾上成一・田崎智宏（2023）「将来世代考慮の制度の類型」環境経済・政策研究16、p.1-10.
- ・スティーブン・J・ソントン（著）、渡部竜也・山田秀和・田中伸・堀田諭（訳）、「教師のゲートキーピング」、春風社、p.141,
- ・本研究は、科学研究費助成事業（奨励研究 25H00115 研究課題：「持続可能な社会づくりをめざした金融ゲーム教材開発」）の研究成果の一部である。